

2022年4月28日

## 編集委員会報告

2021年度投稿分（2022年発行 Vol.2）について

(1) 委員の委嘱

委員長 中坪史典

(2) 査読者の委嘱

中坪委員長をはじめ、学会内外で以下の方々に査読協力を依頼いたしました。※敬称略  
金井智恵子(和洋女子大学)、木村拓磨(名古屋経営短期大学)、佐久間路子(白梅学園大学)、  
二宮祐子(和洋女子大学)

(3) 学会誌発行状況

第2巻まで発行済（2022年4月現在）

(4) 投稿数・採択数・採択率

年	2021年（令和3年）		
	投稿数（稿）	採択数（稿）	採択率（%）
原著	4	3	75
総説	—	—	—
事例（実践）報告	1	1	100
紹介・調査	1	0	0
その他	3	1	33
合計	9	5	56

(5) 編集委員会講評

[原著]

著者・所属	論文等タイトル
貞松 成 大阪総合保育大学大学院	保育士の子ども理解とは何か
〔講評〕 保育者における子ども理解（幼児理解を含む）とは、保育実践を遂行する上で欠かせないものであり、保育学や社会福祉学において最重要テーマであることから、本学会にふさわしい論考と言える。また、量的データと質的データのそれぞれの特徴を生かした、実証性と実践性を併せ持つ論文として意義あるものと考えられる。	

著者・所属	論文等タイトル
大道 香織 広島大学大学院博士課程後期 山田 千愛 千葉大学技術補佐員	ドイツの森の幼稚園における子どもに対する保育者の配慮
〔講評〕 本研究は、ドイツにおける森の幼稚園の子どもに対する保育者の配慮を明らかにすることを目的として、ドイツの森の幼稚園および一般の幼稚園の保育者を対象にインタビューを行い、SCAT を用いて質的な分析を行った論文である。森の幼稚園の保育者の語りに基づき丁寧な質的な分析がなされている。	
著者・所属	論文等タイトル
水野 佳津子 佼成育子園 中坪 史典 広島大学	なぜ保育者としての私は乳児の排泄の自立を楽しむことができるのか？ —大人の固定観念を超えた「驚き」「発見」「喜び」—
〔講評〕 本研究は、乳児の排泄について着目し、研究したことについては面白い着眼点であると考えられる。保育士が、乳児の排泄の自立の過程を楽しんでいくための示唆を得ることのできるため、意義のある研究といえる。	

#### [研究ノート]

著者・所属	論文等タイトル
九州看護福祉大学 阿部 敦	介護福祉士を目指す外国人留学生の現状と外国人介護福祉従事者への評価 —労働環境の変容を視野に入れて—
〔講評〕 本論は、介護福祉士をめざす外国人の現状について、最新の既存データを駆使して提示するとともに、著者の考察を述べたものである。	

#### [報告]

著者・所属	論文等タイトル
西村 実穂 東京未来大学こども心理学部	事業所内保育施設の災害発生時の対応における課題
〔講評〕 事業所内保育に関する先行研究が不十分な点や、地震や豪雨など、毎年のように災害が多発する我が国の状況を踏まえるとき、本調査結果の有用性は十分に認められる。調査結果を広く社会に発信されることが望ましいと思われる。	